



主從心得草三編

上

9
3457
5



3457
5

自序



○心學の道みち入者いりしやの家内いへうちの和合わがはの勿論もちろん一家親類いへおやぢとも中あたふ
く暮くらしし。人交ひとまじりをよく致いたし。邪よこしまもある人ひとよりあはてるとあは
そそむ。且また又また産業さんぎやうを怠あやまらむ足事あたらをあり 御代ごよの恩沢おんたく
をあり 御法度ごほふだうを大切たいせつに守まもり。唯ただ今日の無事むじを樂たのむ。世
を安心あんしんに送おくるの教おしへ也。智者ちやうしや学者がくしやの鬼おにもあれ。家業かぎやうよりひ
まなき人ひとに此道こゝろおのろむとしてしていよき所ところに通りとほりがせし。
心學しんがくの利益りやくある事ことを知して人ひと々ま學まなびおべし。

○此本の所ところに御政事ごせいじを批判ひはんするやうの事ことあはとも中あたて
左様さやうの事ことあり。大家たいか小家せうけ共ともに主従しゆじゆの心得こころえを論ろんする時ときを

三行公尋三編上



せいふ

家^{りく}の政事^{せいじ}法度^{ほうど}あまは。何^{なん}とぞく御政事^{ごせいじ}の事^{こと}れやうある
あり。又古語^{こご}を引て主従^{しゅじゆ}の心得^{こころえ}を論^{ろん}むる事^{こと}あまを御
政事^{せいじ}の度^どもあるべし。いづも主従^{しゅじゆ}の善惡^{ぜんあく}をいふ事^{こと}あまを家
を齊^{とよ}へ國^{くに}をわさむるの評判^{へうばん}せよばらうりかこし夫故^{おつ}り
是非^{ぜひ}あく御政事^{ごせいじ}の度^どを引て善惡^{ぜんあく}をいふ事^{こと}あり。何
をいふも唯主従^{しゅじゆ}の心得^{こころえ}を申^{まを}す迄^{いた}の事^{こと}あれはよむ人心得^{こころえ}違^{ちが}
あきやうふまを處^あし。此草紙^{このくさし}の家業^{けがふ}いひまあき人の為^{ため}又四
角^{かく}ある文字^{もじ}のよめがこき人の為^{ため}ある也

○弘化三年十月 御免 同四年未正月出板

藏書

主従心得草三編上目錄

- 一 智者の善人を用ひて愚者を用ひる事^{こと}ありし事^{こと} 丁初
- 一 富歲^{ふせい}あり頼^{たの}み多^{おほ}し。凶年^{かうねん}あり暴^あ多^{おほ}し。の事^{こと} 二丁
- 一 古^{いにしへ}の奉行^{へいぎやう}人^{ひと}の先^{まづ}我身^{われみ}をいふ事^{こと}ありし事^{こと} 七丁
- 一 名將^{なしょう}の功^{こう}ある者^{もの}を賞^{あや}して已^{おひ}まは推威^{おしゐ}をとりし事^{こと} 九丁
- 一 上^{うへ}へ向^{むか}ひて嘘偽^{うそいつはり}りをいふ者^{もの}は下^{した}へ向^{むか}ひて慈悲^{じひ}あき事^{こと} 十丁
- 一 延喜^{えんぎ}帝^{てい}菅^{かん}丞相^{しやう}の人^{ひと}を賞^{あや}するの道^{みち}を問^とふ事^{こと} 同丁
- 一 國家^{こくが}を治^ちむるの大事^{だいじ}の賞罰^{しょうばつ}の二^{ふた}つありし事^{こと} 十三丁
- 一 音砥^{おとを}左衛門^{さゑもん}が坪^{つら}の内^{うち}へ錢^{せん}三百貫^{さんひやくくわん}文投^{ぶんてい}込^こめし事^{こと} 十四丁
- 一 孔子^{こうし}の訴^{うぐ}へを聞^き事^{こと}吾猶^{われちやう}人のどし事^{こと} 十六丁

一 小僧三ヶ條の事

九丁

一 けんくろく論の両方の理非をよく聞き亂らんせといふ事 九三丁

一 主君一人の賢智が大入用といふ事 九九丁

一 手島先生の前訓ぜんくん並無欲清淨むじやくちやうじやうの事 三四丁

一 百衆の家ひやくしゆうのいえのありまんの臣しんを養やしなひむといふ事 三十七丁

一 一切の悪事あくじの欲よくの一ツの變化へんげ遠鳥死罪えんきしざいの根本こんぽんといふ事 四十四丁

一 仁にの人の安宅義あんたくぎの人の正路せいじろといふ事 四十五丁

主従心得草三編上

○前編ぜんへんのもしの通りとおり。上かみの立人たちどの一大事いちだいじ大入用おほりようといふを智ち

者ものの善人ぜんじんを知して舉用あがりようひ。悪人あくじんを遠ざとほけるは上かみの立人たちどの職しやく

分ぶん也。実智じつちの人ひとを用もちひむ。國家こくがの苦勞くらうありぬくはよくく治をさまり

て万民ばんみんの安泰あんたい也。善人ぜんじんを用もちひて善政ぜんせいを行おこなふはいづのもの民たみ

治をさまりらざらん。若し悪人あくじんを用もちひむは悪事あくじをおこしり

て万民ばんみんのあんぎいもん方かたあり。万民ばんみんのあんぎが頭やがて主人しゆじん

のあんぎとある也。是こゝよのりく智仁ちじん勇ゆうある人ひとを用もちひて

善政ぜんせいを行おこなふは。天下てんか國家こくがを治をさむるといふは。万民ばんみんをよく

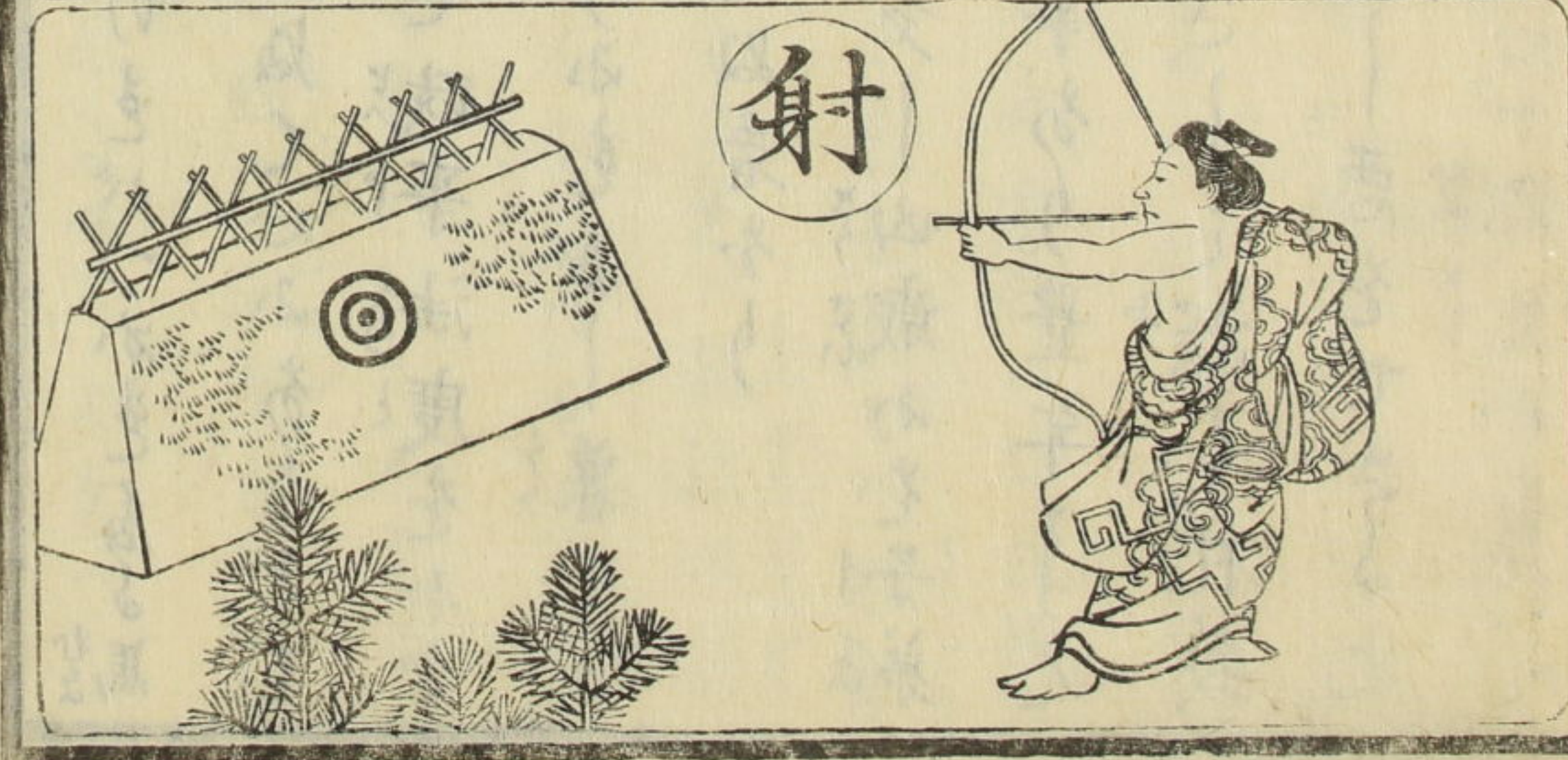
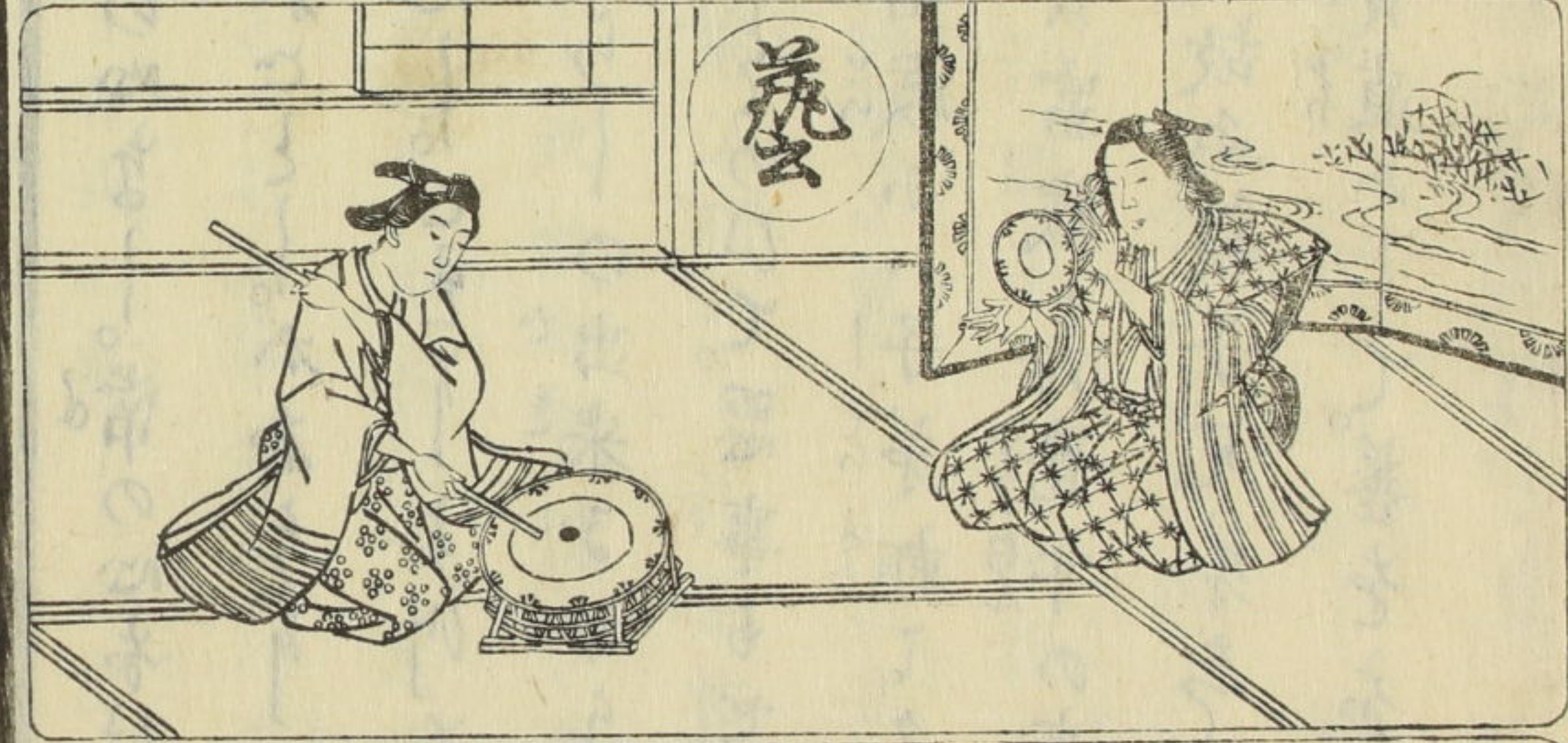
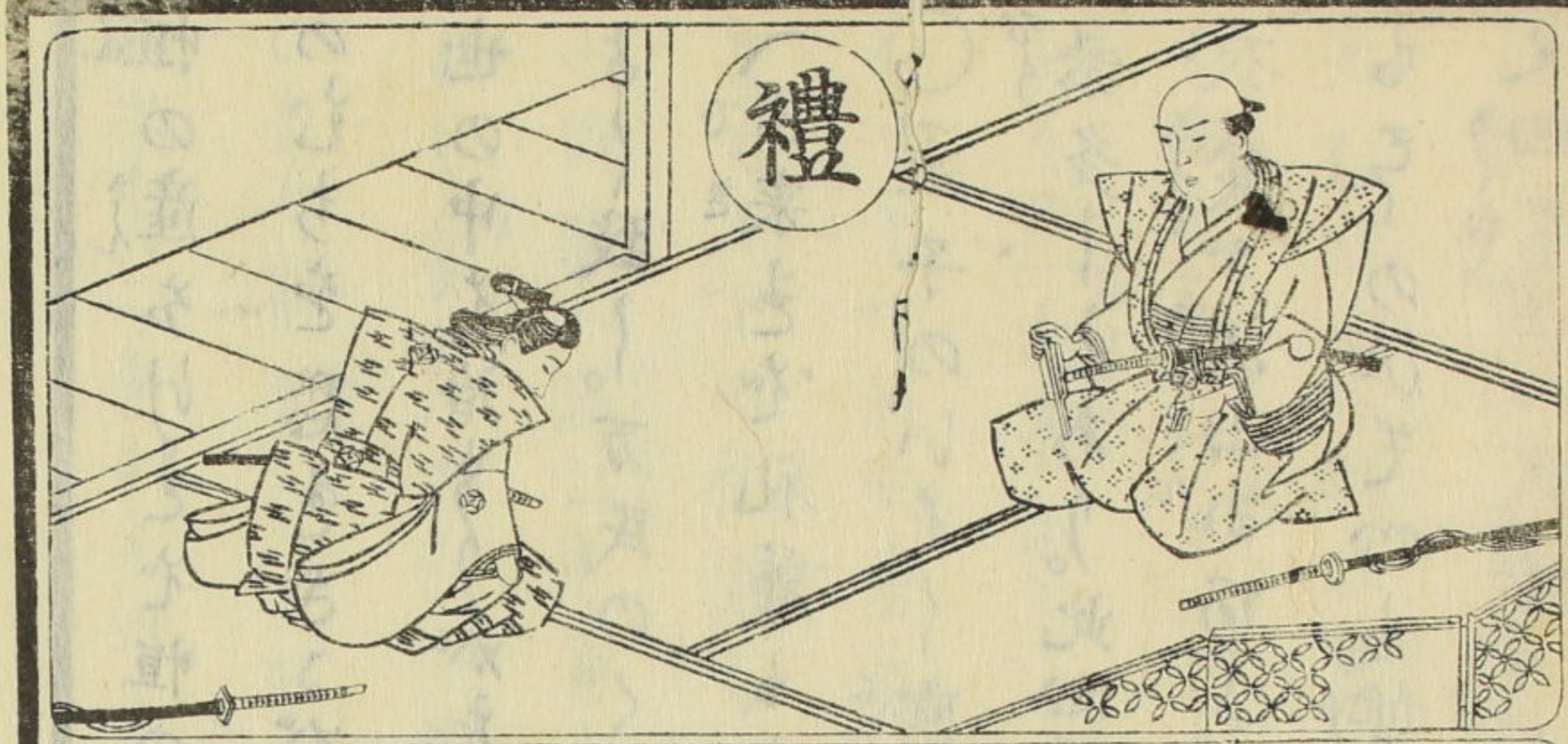
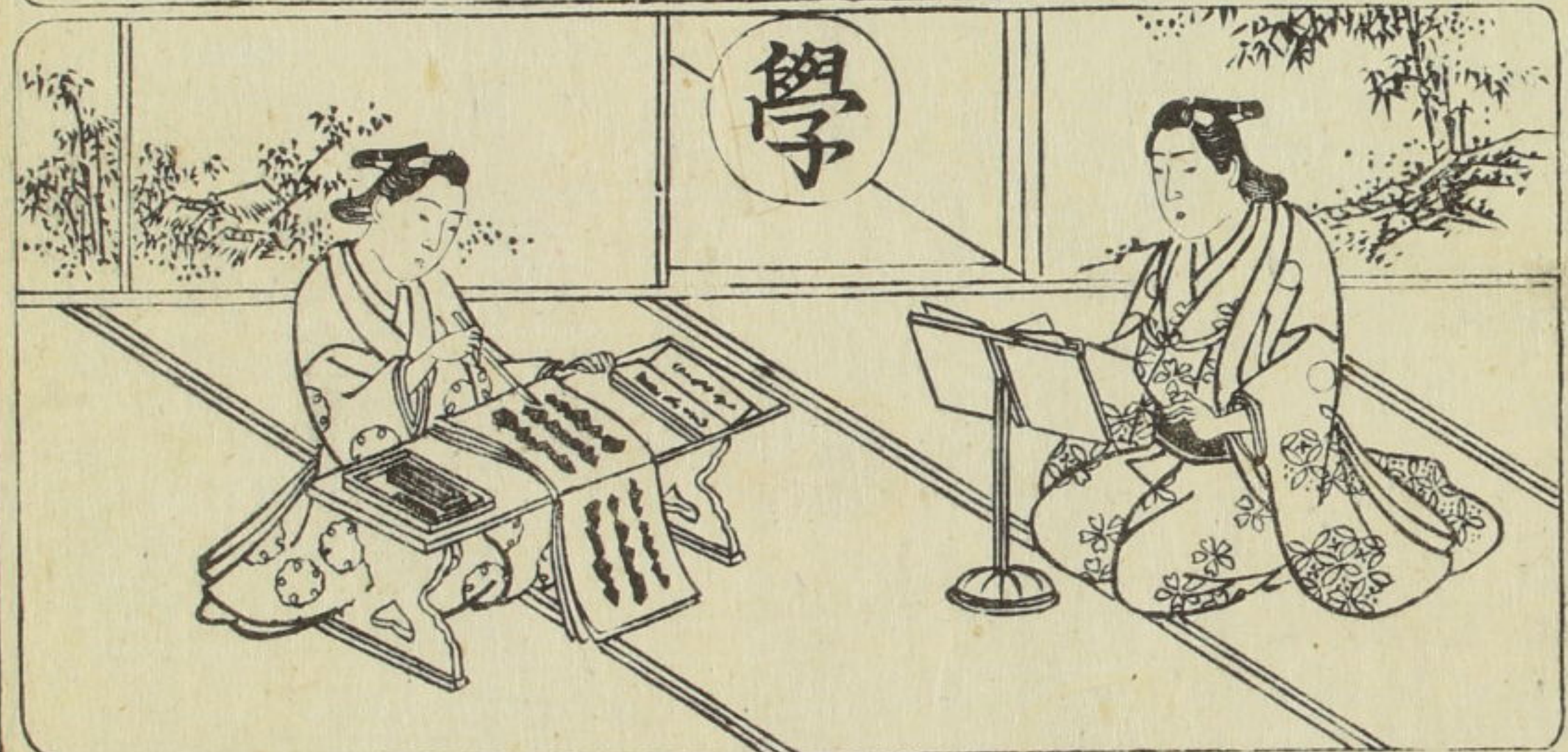
養やしなふ事也。一軒いつけんの主ちゆうを妻子さいしけんびくをよく養やしなふは。

よく養ふべきを。世の中よく治りぬべき。百万石を
 治むるも一軒の家を治むるも同ト事也。何をいふも上
 の立人より下々をよく養ふより外なく候。是れ世をく
 らもの一大事ぬして。治國平天下の根本也。其外ハ皆枝葉
 あり。上下共ぬ。身分相應ぬ暮しハ出来ざるを。家ハ騷動
 ぬる上下の礼儀も整ひぬべき。礼儀整ぬざるハ乱法狼籍
 也。國家ハ滅亡も危し。此故ハ智徳ある人を用ひて。万民を
 よく養ふべきを。善心を失ひて悪事をたぐふ人をそ
 こある事多し。人をそこある事あるが。治國平天下といふ
 がたし。こそぬよ例と。万民の暮しの出来るやうぬべし。

恒の産をけむ恒の心なり。常の心をけむば。つかまざる馬
 のむちを恐むざるがごとし。かむるや。ぬて心ありとて
 世の中を治まりがたし。こそぬよ例と。政事法度をやど
 よし致し。万民のくらしの出来るやうぬべし。暮しさ
 へ出来むを礼義もとのひて。悪事もせぬ者あり
 ○孟子のいそく富歳ハ子弟頼む多し凶歳ハ子弟
 暴多しとあり。此心ハ富歳といハ豊年の事あり。豊年より先
 衣食が沢山ある故ハ。親子兄弟あつと深く。礼義
 もとのひて心も實直ぬして。善をあり悪をせざる也。
 又凶年ハ衣食が不足故ハ。何となく心ハ邪見あるが如し。

孟子心得三編上

三



並從心得三編五

四

親子兄弟の志ごとくとも薄く。礼義もとくひがたし。又暴虐を作も者多し。人の本より善心あま共。あんきうひせめらうきて木心を失ひ。悪を作す者多し。是ふよりて衣食小遣ひのあるゆりおまべし。衣食小遣さへあまむり悪事のせぬ者也。此故小聖人天下を治めむの時。年貢を薄く取りて民を富まめ。其上りて礼義人道を教へむ。是ふよりて民皆仁義礼の道をおもひあり。礼義の有る成てあまといふ。恒の産あけまを恒の心ありと。此事也。手短かくいへ。飯米小遣かあてハ世界ハくちやあり。家業を出精し。苦勞

をまもるも。飯米小遣ひを調へんがためあり。是が本源誠の嚆しあり。一切の勤めをたうき。皆此所へ落とむあり。是ふよりて人々家々の政事治め方をよく致し。上下共にお儉約を守り身分相應お飯米小遣のゆるゆるすべし。作者の口くせと思ふ。要中の要ありて國家を治むるの根本也。恒の産あけまを。常の心ありの聖語又鍋の尻のかり志やくめて。よくさしとるべし。哥あり。○あまこれの礼義遊山もある故也。くひ物あくば息の根も出ん

○冥加訓いよく。天下を持ち國をたもちて。苦勞まもる

も畢竟飲食を以て口を養ひ衣服を身おままとひまをん
 が為也。士農工商皆同ト。王公大人の腹とても。大ききよと何
 らむ。上下尊卑とりりぬ。身の分限ぬこと何也。裸にして
 見た時ハ。五体ハ毛頭おもる事な。唯少一色の白く
 て。けたらき。迨のたがひありとあり。亦らむ大小上下の違
 ひハあま共。其本源ハ飲食衣服を求るハあり。是があけき
 を身心を安樂ぬして善をおも事何ことぞ。此故ハ飯米
 小遣ハの何るやうおまべ。是身心安穩ぬして。仁義礼智
 信を行ふハの本也。孔子も先万民を富めて。其上あま禮
 義を教ゆべ。と仰せらむたり。是ぬくよくおまらぬ。

此本ハ諛辞淫辞邪辞文字相違の所ハ御免ある也。諛
 辞ハゆきつまりたること也。淫辞ハみどりぬ取ままりぬ
 こと也。邪辞ハよこしまぬひがむたる言葉あり

○平家物語ハいも。古ハ聖人の御代の奉行人ハ家来より
 先我身を深く禁めたり。外々の者よりも先吾家人を罰を
 此故ハ其家よく治りて。公事ハ私ハあり。公事ハ私ハき
 時ハ。其法よく立。其法よく立時ハ政事正。政事正ハき時
 ハ天下泰平也。アアかあり。末世又至てハやうの心得を去る
 人も希あり。唯利欲才覚ある人をよき人と心得て。夫ハ奉行
 職を授け。政事をあさむ。その官卑あま。其禄少

けき共。其役ふあまをりつて其者小恩とある。尔らを公
 事小私一何例て其政事かまらず正一からず政事正し
 からざる時ハ。下の悲歎やまらず。一度非政を出せむ。天下皆く
 ら中ことある。何を以て万棧を治めん。智仁勇ある臣下を
 用ひて真直ある政事を致まべし。若不直のちろひあらば。
 家来ハ勿論主君も國家を失ふべし。尔ら又泰時の政事をこり
 行ひむひ一時ハ。正直正路の大道を行ひむひ一故又。万事上の
 仰せをよく用ひて世上自然と静かして世の訃も火あき
 あり。此故小人善政を行ひて國家を太平めをなすべし。先
 何り。是は相違なり。奉行職都く人の上小立人ハ。先其身

を第一小よく正しく致す。其次は家来けんごの無理非
 道をひどくいまむべし。主人の威をかり主人よかしてよ
 く悪事をさる者也。此事を心ふけく家来けんごハ非道
 あきやう小まべし。若家来けんごハ無理非道があらば。是
 即ち主人の越度とある。此故小家来けんごの悪事をひど
 く守りて自然と國家安泰あるべし。

○和論語小源の勝元のいも。天下を治むる人ハ万民の罪を
 憎て誅せんよりハ。己まが悪心悪行を切べし。己まハ恣
 めして万民をいまめり共。罪人の強く多るべし。君ハ体あり。

万民ハ影あり。体正たいちやうしかりざる時の影直うひあやくぬ苦くるしみありと。又同書どうしより
 源もとの氏網うぢつなのいとく。良將りやうしやうハ已あまが罪つみをせめて。人の罪つみをせめず。
 國家こくがの治乱ちらんハ我われより。民たみの心こゝろの何なにも。已あま正ちやうしかりぬ。民
 を罪つみをもるハたたくむ。木きの根ねをたちて。枝葉しえふのちげらん事をかつ
 かじかじじ。無智むちとらふらと何なにり此二段こゝの和論語わろんごをよよくくあありて。
 人ひとの上うへの立人たちハ。先まづ我身われみ我心われこゝろを正ちやうしかりて。其後そのち万民ばんみんの罪つみをせ
 むむべべ。己おのを正ちやうしかりて。民たみをせむるハ体たいゆゆががて影うひの直ちやうなる
 を求もとむむかかごとと。ああるるぬ事こと也なり。先まづ已あまが惡心あくしん惡行あくぎやうをやめて。其の
 ち万民ばんみんを正ちやうむむべべ。令しめせむむて万民ばんみんハ善心ぜんしん善行ぜんぎやうあるるべべ。國家こくがを
 治乱ちらんハ上うへたる人ひとの善惡ぜんあくより何なにりて。民たみのあある所ところの何なにも。孟子もうし云いふ

いとく。君仁きんじんハ民仁たみじんありざる事ことあり。君義きんぎあまを民義たみぎ
 ありるざる事ことあり。又論語ろんごのいとく其身そのみ正ちやうしかりる令しめせむむて
 行ゆくく。其身そのみ正ちやうしかりる令しめせむむて共行ともありる令しめせむむて
 爰こゝを以もてもよよくくああるるべべ。此文段このぶんだんを上うへの立人たちハ急度きゅうど心得こころえて。我身われみ
 我心われこゝろを正ちやうしかりるああるる。下したの臨りんむむべべ。令しめせむむて民たみよよくく治ちやうまま
 り。罰ばつせむむて民たみよよくく恐おそむむ慎しんむむべべ。主君しゅきんたる者もの此儀このぎをよよ
 く心得こころえぬ。此令このしめせむむて民たみよよくく治ちやうままり。罰ばつせむむて民たみよよくく
 恐おそむむの上うへの治ちやうめ方かた秘事ひじ口傳くちでんをよよくくああるるべべ。又またひひどどくく令しめせむむ
 て民たみを治ちやうめめひひどどくく罰ばつして民たみを恐おそむむてて愚人ぐじんのなる所ところに
 ちち傾かたてて乱らんを招まねくくの兆きざしあり。又過あやまちを引ひ出だして已あまが家い

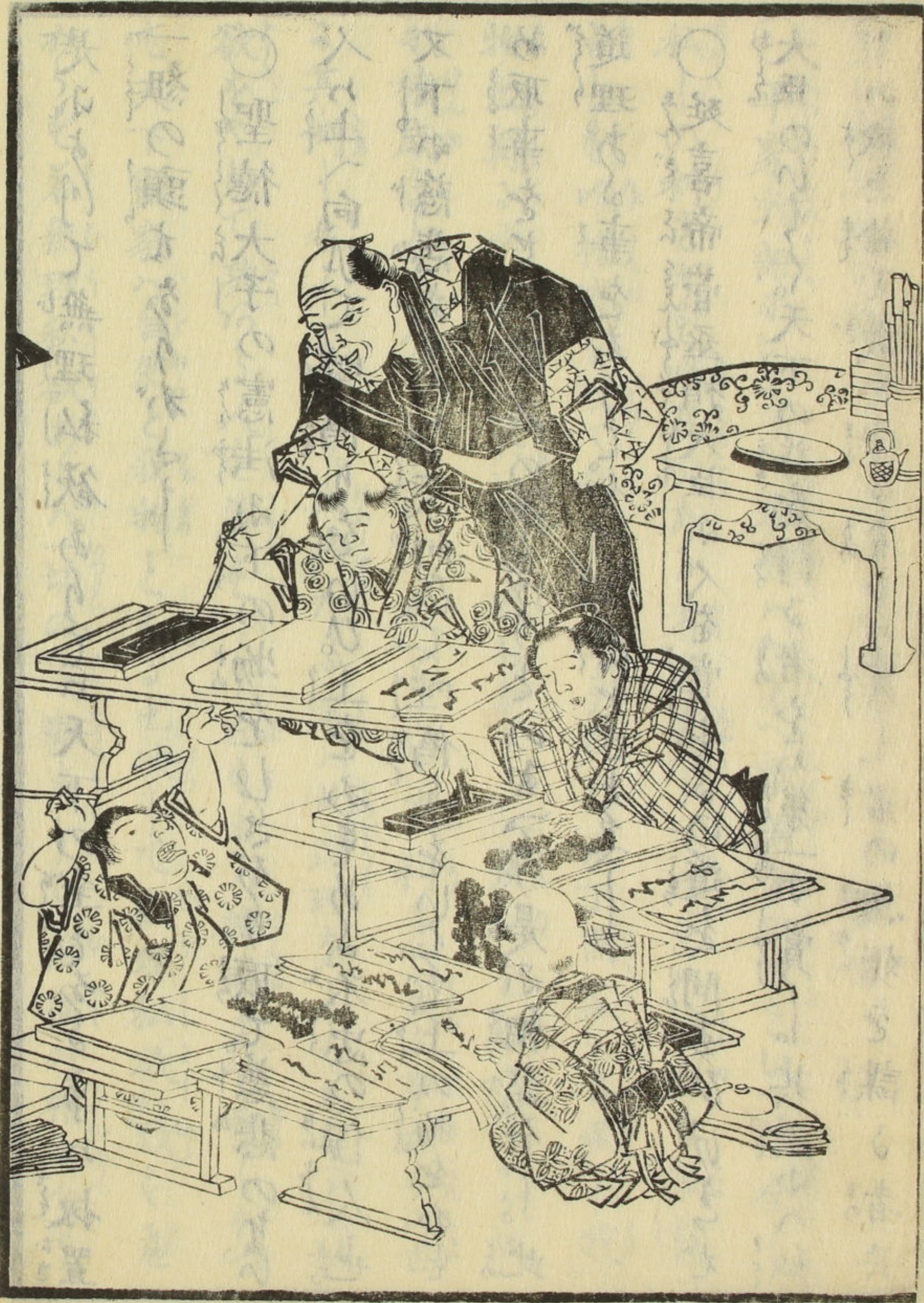
身を失ふ人あり

○平家物語いさく。名将たたとて敵國を攻取といひ共全く
 私一の利とせむ。唯其功ある者を賞して己を推威を取
 旨とも。唯權威を取て利を取らざるを天下國家の自然と我
 物也。再るの愚將は其權を取らざりて其利をむさがるが故
 権威まざるあり。ありて其利まで失ふ事古今の世
 其例一多とり。大将たる者此道理をよくあるべし。私
 欲をやめて功ある人を賞むべし。左も右も權威まで重くあ
 て。天下國家の自然と我物とある也。決して無理私欲の致を
 かりむ。若無理私欲あらば一切の災難来りて無福の根本あり。

是ふよひて無理私欲ありて天下の至とある事ハ叔置
 一組の頭もありがごとし

○聖徳太子の憲法。下の物をむさがり取て慈悲のま
 人の上へ向ひて。啗偽りをいひ。上をなめめる不忠の佞人也。
 又下の慈悲ある人の上へ向ひて。啗偽りをいむ。上の物をな
 め取事をせむ。忠義の者ありとのむ。是ハ相違あり。此
 道理ある事をありて。人の善悪をささるべし

○延喜帝菅丞相大臣の人を賞むるの道を問ひけむ。大
 臣のいさく。天下の益を計る者を第一に賞し。其次に私
 一の欲を捨て義を守る者を賞し。君の機嫌を謀る者共



童男童女習ひ事を出精まべー
物習とごまかせいぢんの後よりよ
くやむ事あり物習ふハ出世のつる
財宝のつより所

心の決して賞する事あるは。今ハからむ君の機嫌を取者をた
 心ありと志す。此人むろりを賞しむ故なり。天下の者其君
 の機嫌のくをつらひて様く便りを求めて唯上よのこ
 びへひらひて。下の難義をかまをむ。唯己色のくを利せんや
 也。此故ハ政道正一かむ政道正一かむ。時ハ君臣共よ
 亡ぶといへり。是ハ小間違あり。此通りハ心得て。是を仍主人
 あらば天下の明君也。天下を益する者ハ日月佛神ハひと
 一。君の御機嫌を取て用ひらまんとするハへひらひ者也。
 邪欲ありて不忠不義者也。唯己色を利せんともするを
 天下の罪人あり。決して用ひらむを恐るるを

○中庸ハいそく。君子ハ上位ハ在て下を陵ぐ。下位ハ在
 て上を援む。己色を正ありして。人ハ求めざる時ハ怨あり上
 天をも怨む。下人をも尤めむ。故ハ君子ハ易きハ居て以
 て命を俟小人ハ險きを行ひて以て幸を徼むとい
 へり。此心ハ上ハ在て下を陵ぐとひひ。権威を以て下へ無
 理せむといふ事也。又下位ハ在て上をひくむといひ。御上の
 お多きと申して下をまへたげ御氣ハ入て恩賞ハ預からん
 ことを望まむ。真直なをうらひをして中道のよい所を行ふ
 をいふあり。上ハ在ても下ハ在ても己色を正ありして他人よ
 求る事あり。権威も福德も人ハ求めざる時ハ天をも怨むす

人をも咎むる事あり。又君子ハ易き小居て命を俟とりむ。唯道をおこあひて。吉凶禍福ハ天命小任せて安心小世の中を送る事也。又小人ハ險一き行ひて幸ひを微むりふを。小人ハ險あきことをして。まぐも幸ひの福德を急小求めんや。ま中く左様ハ泰リがと一。何でもあぐや。吉凶禍福ふまむと。善を行ひて天命を俟より外あり。無智の小人共此義をよく心得て。唯善心善行を以て天地自然の福德を求むべし。是を無欲清浄とり小大賢君子の道也。唯仁義忠信を行ひて。福德ハ天命小任せて安心小暮を度し

○貞觀政要小いなく。國家の大事ハ唯賞と罰とあり。賞

罰道小叶ふ時ハ無功の者ハ自う退く。罰其罪小あり時ハ惡をある者ハ。誠又怖る此故又賞罰を軽く行ふ處うらむ。書小いとく。帝王の徳ハ人を知り小あり大あるハなく。人を知り用ゆる時ハ。惡人ハかくまう善人のことあり。國家ハ自然と泰平也とあり。此政要の公をよく志し。智仁勇の三徳ある人を用ひ。賞罰をあき。泰平の御代とあまべし

○論語小いとく。刑罰中らざる時ハ則ち民手足を措所ありと註小いとく。刑罰已小乱るを民恐れて天よせくは海り。地よぬき足く安うらむ。手足の置所あり。是政要と合せ

勤けんふべし平治物語へいぢのものがたりいそく。密ひそか思おもひ見みえを三皇五帝さんおうごてい乃
 國くにを治をさめ。四岳八元しやくはつげんの民たみを治をさめり。皆みな是これ器うつせを撰えらんぐ官くわん
 又また任まん。身みをわへり見みて禄ろくを受うる故ゆゑ也。君きみハ臣おんを撰えらんぐ官くわん
 授まけ。臣おんハ已おのををりて。職ちやくを受うる時ときハ勞らうせむして民化たみくわする
 といへり。故ゆゑハ船せん航かうの海うみを渡わたるハ必かならず。橈せう楫せきの功こうをかり。鶴つる鶴つる
 の雲くもを去さのぐふハ羽う羽うの用ようふよる。帝王ていおうの國くにを治をさむるハ
 必かならず。匡きやう弼ひつのたをけふよるといへり。此こゝ通とほりハ相違さうゐあり人
 君きみたる者ものハ撰えらんで良臣りやうしんを用もちむべし。又また臣しん下くだたる者ものハ已おのをの
 才智さいちを量りりて我分わがぶん又また當ある役義やくぎを法はとむべし。已おのをの才さい
 智ちあぐりよよい役やくをつとめたるハ不仁ふじん不智ふちの人の望のぞ

む者也。必かならず。有ある人ひとハ役義やくぎハ申付まをすがたし。已おのををわ
 ざる人ひとなり。已おのをを知らざる人ひとを人ひとを知らむ。前後ぜんご真黒まぐらか
 り。かやうなる人ひとハ役義やくぎハ申付まをすがたし。まづ人ひとの上に
 立たぐ人の善惡ぜんあくを糾たす者ものハ已おのををわらむ人ひとをわらむ
 して可べからんや。何なんれぬ事こと多おほし。上下じやうげの難儀なんぎあり。決けつし
 て用もちむべからむ。已おのをの才智さいちををりて。役義やくぎをつとむる
 者ものハ必かならず。人ひとあり。是こゝハ用もちむべし
 ○聖徳太子せいとくたいしの憲法けんぽういそく。政事まつりごとの肝要かんえうハ良哲りやうてつを尋たづね求もと
 めて用もちむるハ仁徳じんとくあり。國家こくがハよく治をさりがたし。政事まつりごと
 預ある者ものハ仁徳じんとくあり。我わが好身こうしんの者ものハ必かならず。勇徳ゆうとく

あけきバ威ある者小恐も。義徳あければ賄賂迷ひ。智徳あければ巧しめる者小くらまさる。此四徳ある者ハ賢人也。賢人の得る事あり。四徳ある者を得む。一徳は叶ふ者を用ひよ。一徳ある者を用ひを四徳ある賢者よ出来るべしとあり。よき人を用ゆる時ハよき人がよき人を段々と誇ひ出せあり。論語ハ仲弓がいわく。焉くんぞ賢才を知く。擧んや。孔子のいわく。爾が知る所を擧よ。爾が知らざる所ハ人舎んやとあり。余らも。我がありたる所の賢人を擧用せむを。知らざる所の賢人も段々聞傳へて尋ね来るとあり。

○太平記のいわく。ある時徳宗領は沙汰出来く地下を公

文と相摸守と理非を論じて。公文が申す所道理ありといへども。奉行等徳宗領ハ憚りて。公文をまわしける。青磁壺人権門も恐る。理の當然を委細ハ申立て相摸守。其恩を報せんと思ひける。利を得く。世帯安堵しけむ。其恩を報せんと思ひける。ある時錢三百貫文俵をいきて。うしろの山ありひとも。青磁が坪の内へ投あて置き。青磁是を見て大いハ憤り。沙汰の理非を申すハ相摸守殿を思ひ奉る故也。全く地下の公文を引かあらむ。若引出物を取べきあらむ。上の悪名を申留めぬ。相摸守殿よりこと悦びを志す。苦あり。沙汰

小勝とて公文が引出物をまぶき苦あしとして一錢も用ひむ。
悉く持送らせて返しける。自余の奉行頭人も此事を関
已むを耻る故に聊も理ふ背きたる事あり。誠は古今あまを
る廉士也。一切の政事をつうととるものなり。かやうに致し
とあり。青砥左衛門藤綱の勇徳あつて威ある人お恐る事
あり。智仁勇義を兼たる一騎當千の男也

○和論語ふ平の泰時のいごとく我常ふ人の心は奸曲あま
事を思ひぬるふ今わる訴へを聞事存外也。然る小廉直
の中お諍論あり。一方お定めて邪しまあるべし邪まある人
於ては忽ち罪お行ふべし邪しまある人國お一人ある時ハ万

人の災ひ也。天下の敵何事うこそお過んやとて訴へを
らまければ目を追て邪しまある訴へありとあり。此邪
まある者國お一人ある時ハ万人の災ひとあるといふ事をよく
あつて若邪悪の人ありば心おうけて取り取べし。同書お泰時の
父義時朝臣ハ頓死あり。泰時のいごとく父常お弟共を強ちお
愛しおひりありとて所領を舎弟達お過分おけ遣りて。
自分お三四番目の弟の配分おと取て天下を治めお諸大
名以下皆是小取て國家ハ静かお治まりるとあり。一切の
災ひハ貪欲より起る事也。小欲知足ハ一切の災ひを遁る道
あり。北條家の繁昌ハ泰時の小欲知足お依てありと悟窓漫

筆小見へたり。一切の主君達相應あはれあはれくくも者ハ。皆泰時公
小習おぼひて小欲せうよくを樂たのしむ無理むりを強欲きやうよくをおぼめらむ。さすれば
を自然じぜんと世の中ハ静謐せいぎあり。一切の訴うへハ多く邪欲じやく強欲きやうよく
より起おこる者也。正直しやうじき小欲せうよくある時ハ訴うへあり

○大學だいがく小孔子のいもく。訴うへを聽事きぎ吾猶われなほ人のごとし。必かなむ
訟そうあかりあめん。情まごあき者ハ其辞そのことばを盡つくす事を得えむ。大
い小民せうみんの志こころざしを畏おそむ。是を本もとを知るといふとあり。
註ちゆいといく訟そうへハ公事こうじ訴訟そんごの度也。公事こうじといふ者ハたが
ひ又理非りひを何なにらそむ。辨舌べんぜつを以もつて。非ひを是ぜいひあま者ものを
きむ。うかつ小弁せうべん別志べつしがごとし。孔子も訴うへを聽事きぎハ吾われも

人並ひとらあき共とも。其本そのもとを正ただしくして。訴うへあきやうかする
あり。其訴うへあきありあまも。本もとといふハ。悪人共あくにんどもがうを
偽いつはりりをめよへ。ことばをたゞこふして。上うへを何なにぞむき。相
手ての人を負まうして利徳りとくせんとする。然しかも共公事きこうじとさむく
人ひとが正直しやうじきの智者ちやくめて悪人共あくにんどものうを偽いつはりをよくあつて罪つみ
小行せうぎやうひあふ。此故こゝ小悪人共あくにんどもハ大い小恐おそむて。ふたたび訴訟そんご
まする人ひとあり。是を其本そのもとを正ただしくして訴うへあきやうか
すると仰おほせらるる者也。上うへあふる人ひとが智者ちやくめて清きやう
淨じやうけつ白はくり公事こうじを捌さくく時ハ。悪人共あくにんどもハ恐おそむくあつて
から訴うへありあまも。若し依よ怙こひいきの沙汰さたある時



ハ内縁手づるを以てうを偽りの訴へ多くして政事の彌く
乱^{みだ}をて世の中へくくや^ま也。此故^{ゆゑ}公事の依怙^{よこた}ひいきあ^らく。
真直^{まこと}みさとをくべ^し。真直^{まこと}みさとをく^る時^{とき}ハ内縁手づる者又悪
人共の啞^う偽^りりの訴へ^をあ^らくあ^らく。國家^{こくが}ハ清浄^{せいじやう}め治^ちまり
て上下共^{じやうげ}安泰^{あんたい}あ^らくべ^し。是^{こゝ}を其情^{まこと}あ^らき者^{もの}ハ其^{まこと}こと^を
を盡^つも^を得^えむ。大い^{おほ}い^い悪人共^{あくじんども}の心を畏^{おそ}む^{べし}と^しり^ふ。
是^{こゝ}を其本^{まこと}を正^{ただ}く^して。訴^{うた}のあ^らきや^うめ^まると^し仰^{おほ}せ^ら
せ^らる^るの^も也^{なり}。又^{また}い^いひ^ひ取^とい^いひ^ひめ^めち^ちを^を以^もて。勝敗^{かちまひ}を^を付^つく^時も。
公事^{こうじ}訴訟^{しゆんご}ハ弥^{いよいよ}く^く多^{おほ}く^くあ^られ^て。万民^{ばんじん}の難儀^{なんぎ}と^ある。是^{こゝ}よ
つ^つい^いひ^ひ取^とい^いひ^ひ勝^{かち}の^をめ^めふ^ふめ^めま^まり^りと^し。無理非道^{むりひだう}の悪人

を取り^とい^いぎ。正直^{まこと}の善人^{ぜんじん}を^をか^かと^とあ^あむ^むる^る時^{とき}ハう^うを^を偽^{いつはり}りの^の訴^{うた}
訟^{ごう}も自然^{しぜん}と^あく^くあ^あれ^て。上下共^{じやうげ}安泰^{あんたい}也^{なり}。い^いひ^ひ取^とい^いひ^ひが^がち^ちの^の
こと^{こと}を^をめ^めふ^ふと^と誠^{まこと}の善惡^{ぜんあく}を^をよ^よく^くあ^あれ^て。賞罰^{しょうばつ}を^をあ^あら^らき
ら^らめ^める^る時^{とき}ハ。悪人^{あくじん}ハ大い^{おほ}い^い恐^{おそ}む^むと^しり^ふ。い^いひ^ひ取^とい^いひ^ひが^がち^ち
也^{なり}。是^{こゝ}を其本^{まこと}を正^{ただ}く^して。訴^{うた}へ^へあ^あら^らめ^めん^んと^しり^ふ。い^いひ^ひ取^とい^いひ^ひが^がち^ち
ハ勝^{かち}を^を以^もて。勝敗^{かちまひ}を^を付^つく^時も。其情^{まこと}あ^あら^らき者^{もの}ハう^うを^を偽^{いつはり}りを^をい
て^てせ^せむ^むと^とい^いひ^ひが^がち^ち。う^うを^を偽^{いつはり}りも^もあ^あら^らく^くい^いひ^ひま^まり^りせ^せむ^む。勝^{かち}と^と
む^むると^とい^いは^はね^ねば^ばあ^あら^らぬ^ぬ。夫^そで^でハ無理非道^{むりひだう}の悪人^{あくじん}でも^も。辨舌^{べんぜつ}と^とえ
よ^よけ^けむ^む。公事^{こうじ}ハか^かち^ち。道理^{だうり}のよ^よき善人^{ぜんじん}でも^も。辨舌^{べんぜつ}が^があ^あら^らく^くけ^けむ^む。
公事^{こうじ}ハま^まけ^ける^る。夫^そで^でハ悪政^{あくせい}と^とり^りべ^べし。御政事^{ごせいじ}ハ真直^{まこと}みさと^とあ^あら^らく

善ハ善、惡ハ惡ト。急度きゆうどとらぬときハ。世界中の大難儀おほいなんぎとある。夫故ハ孔子も苛政きやくせいハ虎こありも恐ろしと仰おほせらるるなり。若わかうと偽いつそりのうらたぐ通とほるやうでハ。情まことあき者ものハ其そのことを尽つすことを得えむといひごとし。政事せいじの政せいの字じふをむく。世よ世よ中の盛衰せいすい安否あんひハ御政事ごせいじの善惡ぜんあくふよるべし。世の中ハ此上こゝよりの大事だいじあり。是こゝハ無理非道むりひだうがある時ときハ。世界せかいハくらくやこあり。是こゝハ智仁勇ちじんゆうの三徳さんとくある人を多おほくして。政事せいじの役やく不致ふせいをべし。さきまは世の中よのちのちハよく治ちまりて。上下共じやうじやうともハ安泰あんたい也。若わか不直ふちよくの政事せいじをよる人ひとハ。直ちよくハ大災害おほいさいがいを引出ひきだす。我身われみを失うしなふ人也。此儀こゝを深あはくあつて真直まぢよくある政事せいじを致せいとべし。

さきまは御主人ごしゆじんハ大忠義だいしゆぎ。其身そのみも万民ばんみんも安全あんぜんあるべし。○公事こうじをさむき。人の善惡ぜんあくを糾たづす者ものハ。片方ひとへをうりを聞きてハ。理非りひハ知しるぬ者也。両方りやうほうをよく聞きと上あめく。善惡ぜんあくをさむくべし。落穂集らくすゑしゆ一ひといをく。ある時とき御明君ごめいくんの御前ごぜんへ御用之儀ごようぎハ付諸役人つしよやくにん中ちゆう罷出ひだらるる節せつ。用事終ようじしゆうて後のちハ。御意遊ごいあそびハさせしむ。其方共そのともどもハ小僧しよそう三さん條じょうと申まをす事を聞きたるやと。御尋遊ごじんあそびをされし時とき。誰たれも左ひだり様さまの儀ぎハ承うけりたる事こと。御座ござあり候まをし申まを上げを。然しからば申まをし聞きたむきとの。上意じやういめく。御雜談遊ござうだんあそびをさやうしむ。去田舎寺きよのゐらでうぢの百姓ひやくしやう檀方だんぱう来きりて申まをす様さまハ。我等われら子供こどもを

何事も持候へば一人の御寺の弟子ふか下さる。と願
 ひ候ふ付。和尚承知して天窓を剃り出家とあり掃除
 をさせたり。御經を教へたりして差置候所ある時件の
 小僧親元へ逃歸りひふ付。師の坊よりよびおまをこし
 共めり申さば其後二親共来りて申しひ。我等せ
 が儀も最もや御寺へめり申を間鋪ひ其元様ハ御
 出家共覺え申さむ候。未だ年も忝らざる小僧ハ御無体
 ある事を御申しおさそひとて。大き不足を申しひふ付。
 師の坊申されりる。二親達の願ひおよつて我等が弟子小致
 し共。是非取めどもべきとの義は放てん。其方達のむす才

三徳心傳三卷上

小致もべし。さうりあがら夫はいらりある子細ふ候哉と尋
 らしめけし。親共申し候ハ小僧御寺より逃歸り我ホ申聞
 候儀三ヶ條有之候。第一ハ味噌の摺様悪鋪とて御ありのよ
 し。第二ハ和尚様のつむりのそりやり悪鋪との御ありの。弟
 三ハ用事を達し候節。雪隠へ忝り候とて。御ありのよし。
 是ホの儀ハ皆以て和尚様の御無理と申さ者ふて御座。年
 も忝らざる小うでめく。みとを摺候ふ放てりくをれ申さ苦
 へらまなき事ハ。且又和尚様のつむりを小僧おろせ候ハ
 於てハ是もよくと申を苦はとまあ候。扱又用事を達し
 候ハ放てり。雪隠へ行むして何方へ行む者ハ候哉。是ハ皆以

三徳心傳三卷上

十一

てあり様の御無理と申も者ふて御座候と。居長高かあつゝ
 のあり申も小付。和尚申さまけつゝハ小僧か申もを聞て誠
 と思ひ。親く達の身ふて左様申さるゝハ老翁共一向左様
 か事ふてハ是あゝ候。惣トて味噌と申も者ハ摺粉木ふて摺
 者あり。亦る小僧ハ抄子の甲ふてすりハ小付。拙僧是をま
 う申候。摺粉木ふてすりて夫どもまをまハ小腕故共申まご
 きあま共。抄子の甲あゝまをま放てハ小言りハあゝりま
 あり。寺申ふあゝるやどの抄子の皆まゝつゝ。あまゝゝ我
 等客来の時の為かとしてたゝあゝ置たる抄子の甲追もあゝの
 ごとく摺やふりハとして。是を皆取出して見せ申さまけつゝ

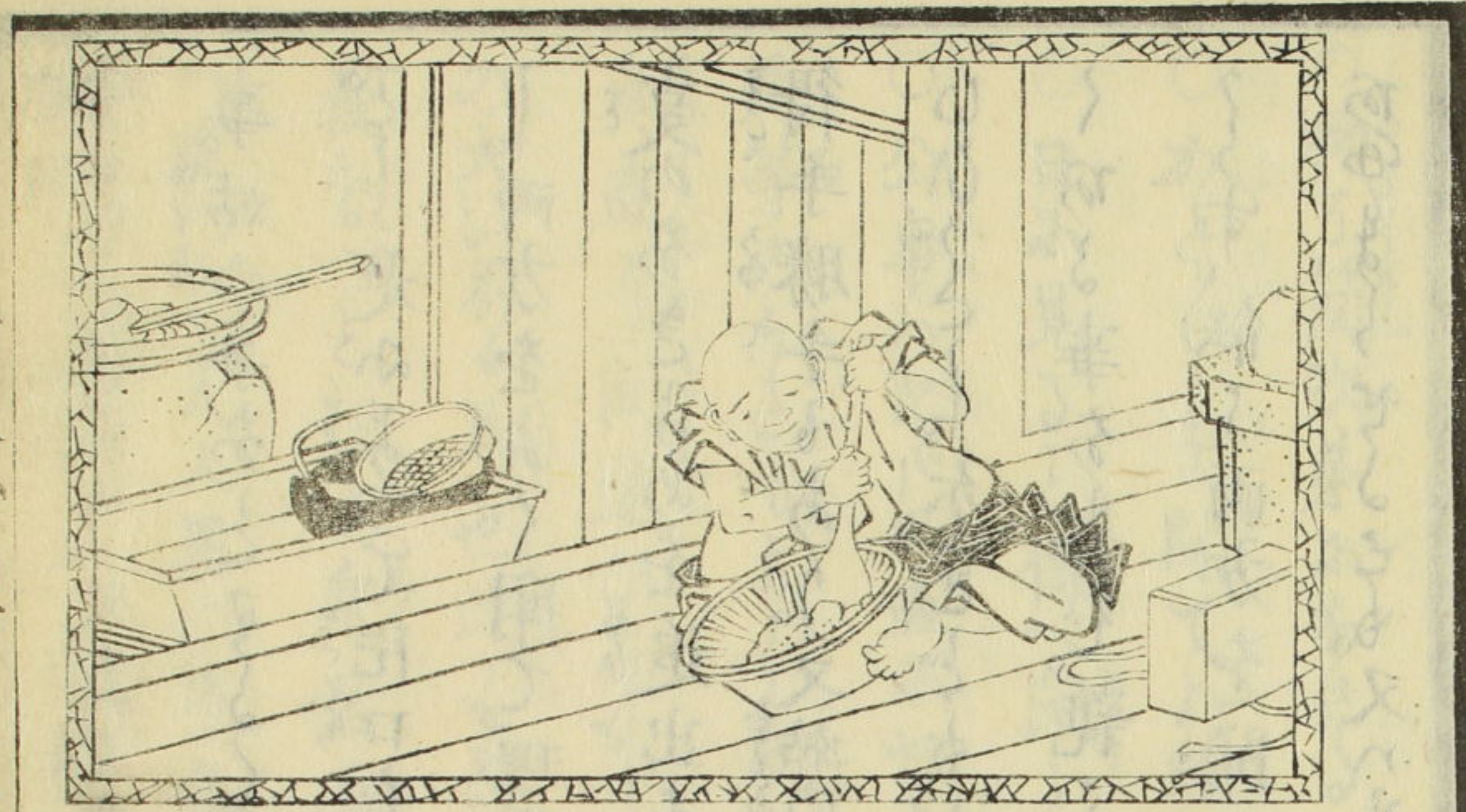
親達ハ大いハ肝をつぶして居らうける。叔雪隠の事ハやど
 近き取あゝる常の雪隠へハあゝつゝ。近頃代官衆在方廻
 りの前。當寺を宿と致さまハ付其節の為ふとして村中の
 世話ふく客殿の己き小造り置たる雪隠へむらゝ小僧ハ
 く故ハ是を無用と申も事ハ候。あたりまゝの常の雪隠ハ
 くを何ぞまゝるべきや。勘へ見るべし。叔又我等がつむらゝを小僧
 みまゝ候儀ハ其方達の存せざる儀もあゝるべし。小僧ハ剃
 刀を天然とよくまゝ見へく己まか頭も自分剃ハ致
 まやどの上手也。夫故ハ余人が頼めハ何者の頭もあゝ
 そりまゝ候ふ付。我亦ハ天窓もまゝ候へハ。態と

くらかりこを。切をのりかゝのどく何さまの内を。ききず
 だうけ小致一候故也。余人の何さまはよくそりあぐら。我
 等が何さまを鹿相ふそり。ききだうけふも。はいかしの
 心得をと呵り申候とて。頭巾をぬぎて見せむへを。つむり
 中の疵だうけあり。両親は是を見て。殊の外迷惑致一。大
 ひふ何やまう入てあぐりけるとあり。惣して役儀をつと
 むる者共は。あぐりのあろき事止も。聞置て。心得小致一た
 るがよきと。御意遊をさう候とあり。是は一切上小立
 人への心得置給があらぬ事也。人の理非もさなく者へ。此道
 理をあぐらむしへ。大きから何やまる事あり。小僧のゆ事

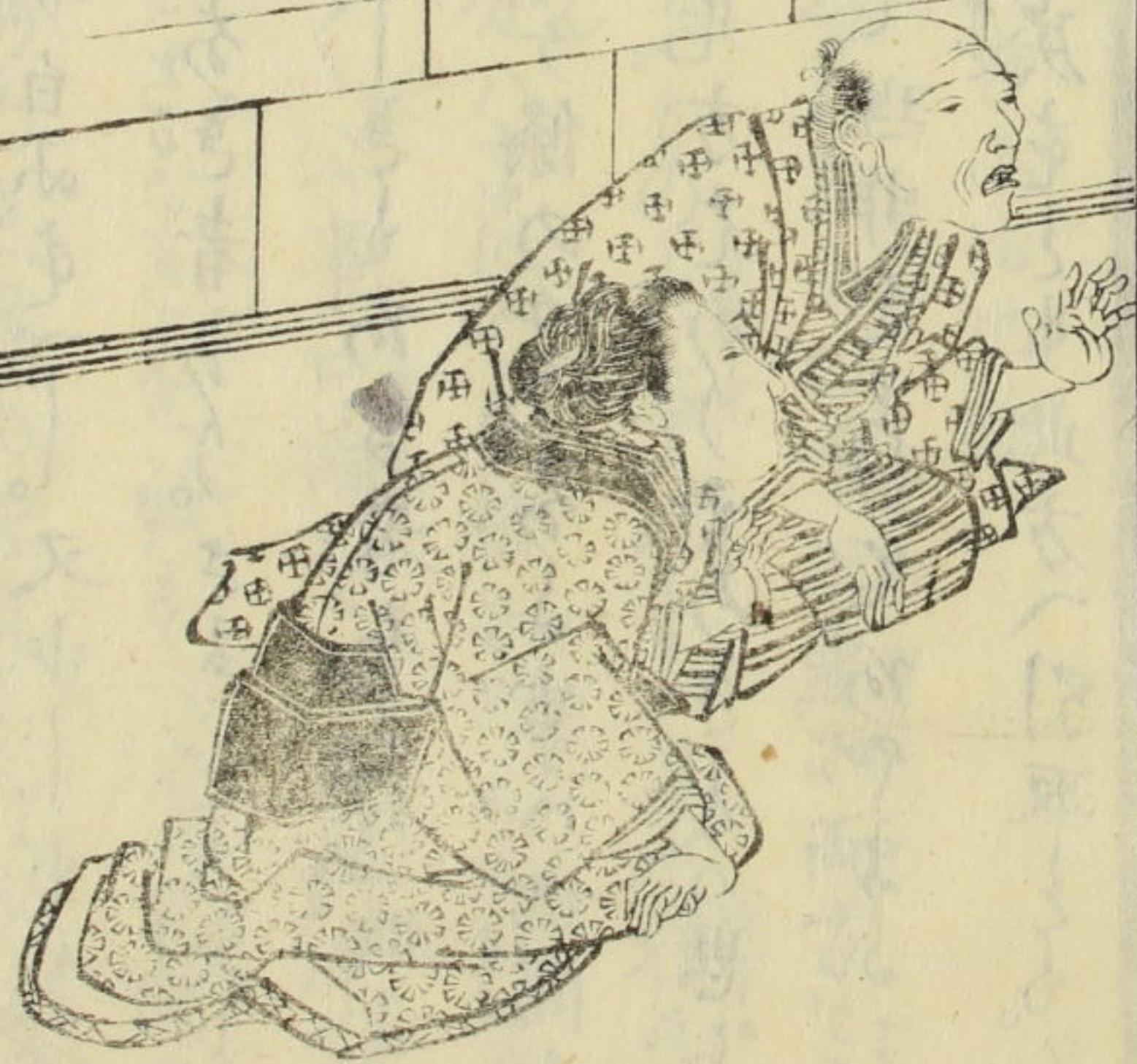
かりを聞て。理非をまけたうを。大間違ひ。和尚のいをれ
 る事を聞て。理非善悪ハ明らうふとふきたり。片方の
 ゆ事あり聞てハ大いふあやまる事あり。此故ハ両方を
 よく聞糾一其上めて。理非善悪をさむく。是を百
 姓町人といへ共此事をよく志例て居て若も人のあつひ
 事。喧嘩口論中直り等の理非をさむく。事もあらむ。兩方
 の事をよく聞糾して。其上ふく中道のよろき計ひを致
 せ。此道理ハ一切の事小通して。大入用急度心得置給き
 度也。都て公事けんらと一切のりひ言小事ハ。とちりで聞バ。
 とちりか至極尤あり。何ちうでなげをあらが至極尤あり。

どちらがどううさ例をとりまかりがごとし是等ハ両方をよく聞
 糾して。其上めて理非を見あつべし誰れも皆我身勝手をか
 りをりゆうして。油断まぶらば。若手前計りよいやうに
 りみ人あらむ。是れを何ぞ子細あるべしと考へて。いかい善
 悪を見つづるべし。双方をよく聞糾して。後ハ善悪をまろ
 べし。又子供かけんことをして親ハ昔口をる時ハ己をハ十分よい
 やうみりよわうして。親ハ夫を誠ハ思ひ先の子計りまろく思
 ひ。大いハ憎む事あり心得違ひあり。けんくは両成敗とて兩
 方みりよい事ある者也。夫故ハけんくはとあるあり。若片方
 をり大いみりよけきを。何とあく。へこんでけんくをみあをふ

らぬ者なり。両方みりよい事がある故ハたかひりおのまの
 よい事をりよをいひつりて。けんくは口論とあるものあり。
 これよめて我子のつげがちを誠と思ひ。あまあり我子のひ
 いきをかりまぶらむ。ひいきの仕そこあひありとあるべし。
 一休のうさみ。○我子をまよきとやめるもあやのぐち。やめそ
 こあひが多くあるものとりよもよくあるべし。又娘がよ
 めりうして追出さきてきと時分ハ先の家をまろくい
 ひ。まろくとめの事を。まおをまろくくひハ事あり。是まろ
 くと誠とハ思ひがごとし。娘もまろき事ある故ハ追出さ
 きてり。又追出したる方でも嫁の事を尾ハ尾を付てま



小僧三條の圖



るゝいふ事あり。又出て来と嫁も尾おひきをつけて。出と家の事。姑の事ありと。ゝゝいふ事ある者也。世間一統大方かくのどし。是ふよつて片口をうりてを聞てん。もんたんの致しつと。両方をよく聞て。理非を明白ふまべし。又少しもどろま。支のあきよめを追出も人もあき者あり。さきども夫との得手勝手もあり。又姑のむあしきもある者あまば。一概よをいひかこし。亦さきども小僧三ヶ條の中りある事ハ世間およくある事あまむ。親く達ハ先方をかりまろきとハ思ふをくらす。能く両方を聞糾して。理非をまけて。あやまるともあつちまろせむとも。又ハ先方へ戻もとも此方へ引取とも。人

の御了簡次第ふあさるべし。大きふ出せ話
 ○あつちを聞てハ理非もあれぬりの唯正直お両方できけ
 ○目お見ると傳へ聞とハちがふりの大事れとハ見て後おせよ
 ○公事ハたゞ正直おせよ當分ハまけても後おめぐるもあり
 是等のおらともよく勘へおいく。公事口論を取あつちハ時ハ
 真直り間違ひあつちのよきさを教まべし。世間の人
 の大いある為也。此をあつちのあろき事のやうあれども。役
 義をつとむる衆。名主家主。人の理非善悪をとける衆中へ
 へ至つとく大人用の事也。夫故お
 御明君ハ惣として役義をつとむる者共ハおやりのあろき事

逆も聞置て心得ぬ致したるがよきこと

御意遊むとせしむる者也。有りぬべき御教訓にして

高貴の御方への猶も大入用の事にして。急度御心得座

あつての叶はざる事也。若下より人の善悪を申し上る時

一かのみ思ひ召て賞罰ある時、間違の事も有りて。存知よ

らむ難波する人もある。若下より人の善悪を申上る時

へ内々を能く聞紀し。篤実の人と御相談有りて其上ぬ

賞罰あるべし。上より立ぬ人など。双方の事をよく聞紀し

理非善悪を分けざる事。間違ひの事もあつて善人があつて

をして悪人が利を得る事あり。夫で人の国家に治まりがた

能く御勘合有りて理非善悪を明白にしけ賞罰のよく

あるやうな事。一國家を治むるの大要也。又中下の者

とても家々人々よくある事あるを心得おいて理非善

悪を明白にし、家をよく治むべし。是にて出入事。公吏

でもあるなどの者ありあつて。辨舌を以て非を理り

りひある者共あるを。中々一通りおいて理非の知をわ

両方を聞ても急ぐべし。理非の知りがたし。然もともた

ひく、両方を突合せく、是の内ふを。その方無理の方を

段々と事の間違ひが出来て後より理非がわらひきりとし

ある事あり。是れよ有りて六ヶ鋪公事口論なり。たびく聞紀

一して其後小理非善惡をこくを何まより間違ひのたのい
者也。此小僧三ヶ條の事ハ高貴の御方やど急度心得居り
むりゆを叶えざるも是ハ上立む人やど大人用也。いづれも
去ても世間およくある事あるを。勘ぐおいて何ぞの時の用お
立べし

○中庸いよく。其人存する時の其政を舉其人亡する
とき其政息とあり。註文武のどきの君ありて周公召
公のごときの臣あらむ政を行ふ事安し。其人あき時の
政事もあきらむして。万民があんぎを致し。衰微して大
の息たるやうあるとあり。尔らを君臣共仁智あり

て。政事をさる時の國家ハよく治まりて万民ハ安泰なり。
又いよく夫政どハ蒲盧也故政事をさる事。人お在と註
いよく。蒲盧ハ水草おく最も生ト安き物故おまつりど
の仕安きふたよ。是も其人を得ざる出来ごとし。故り
政事をさるること人お在りといふ。人とい賢人をさる家語
おも政事をさる事人を得るお何りといふ。是皆君臣の賢
をさるとあると兎角賢人があつてハ政事ハ出来ごとし。上
お立人が二三人仁義礼智信あつてハ國家ハ安くと治まるべ
し。君臣とも仁義実智あつてを。國家ハよく治まり
おつし。君臣共り賢あつてを國家を治むるお何のあつ

き事うあらん。又君臣といひふ者の先主君一人の賢と弟
 一の大入用あり。主君とく賢あきば臣下の中あく篤実賢
 之の者を用ひて國家を治めしむる事自由自在あり。國
 家の安否ハ主君一人の賢不賢よる。主君とく賢あれを其
 外の者どもハどうでも仕安き者也。一軒の家も主とよけ
 きば其外の妻子けんぞくハどうどもあるりのをあり。兎角
 上一人ハ大事のものあり。上一人さよあけきば國家を治むる
 事ハ大いハ心安き事あり。あつるハ其上一人ハよき人が至つ
 て希あり。此故ハ大夫夫ハ國家を治むる人あり。皆あ
 ちふくして。今日もあろびんと思ふ家國むくりのあり。

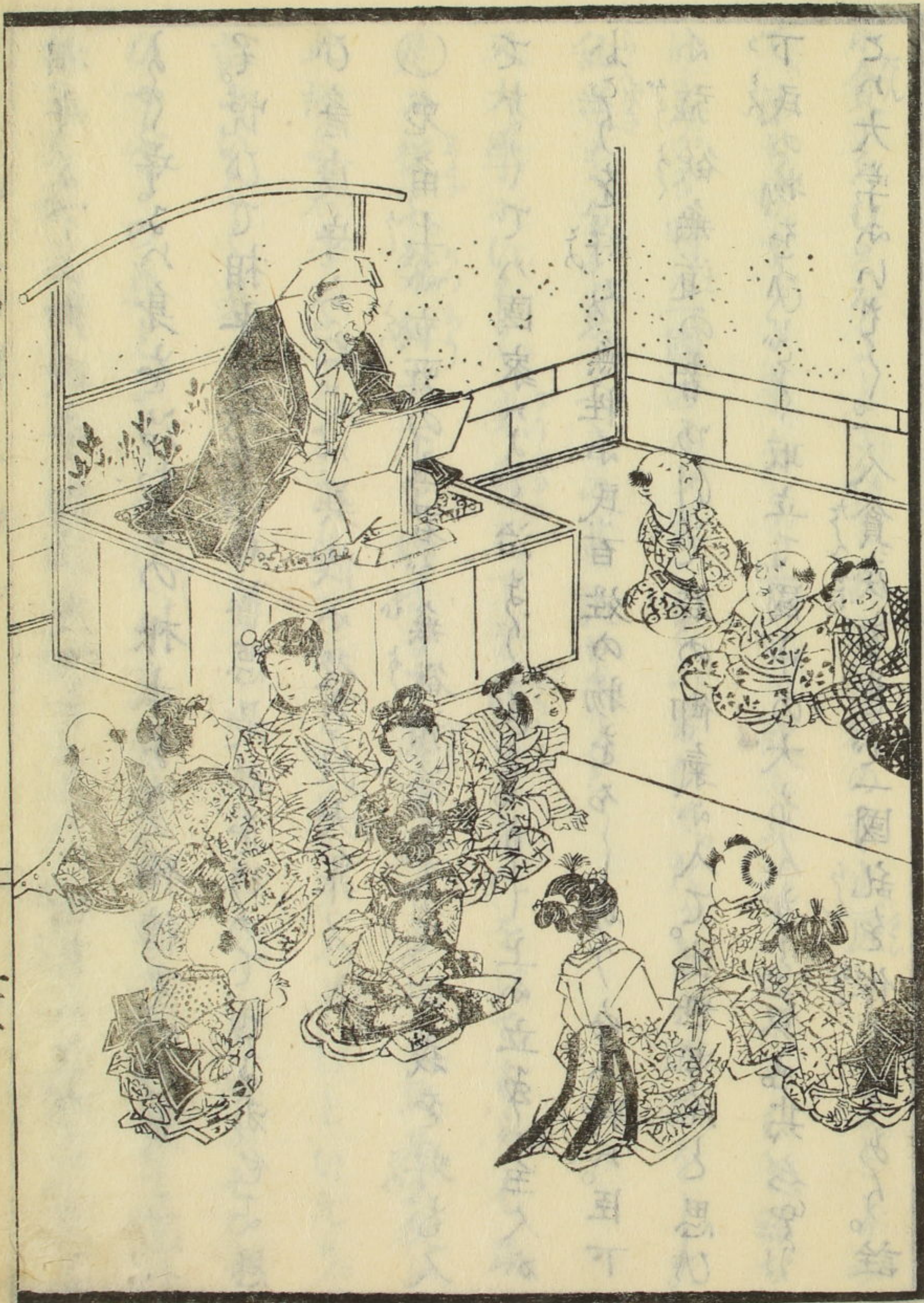
りもあも少く不時の災ひある時ハ夫を取留る所の用
 意あき家をくりあり。其危き事累卵のどし。亦きとも
 未ど幸ひかりて亡びざるも仕合あり。劉向新序いらく。
 國家の治まらざる根本ハ上ハ立人の不智不明ありて善惡
 邪正の辨別あき故ありとあり。是ハ間違ひあり。已きか
 不智不明あり數万の人ハあんぎをうけ。已きも終ハ
 亡ぶとあるべし。又不智不明の主君やどあびりて好きて。
 万民の物をむとがりあふ。夫ハ付てハ無智ハ惡人ハ政更
 を申付て民をまへしげ。百姓町人をひどくハあやまし。其
 天罰もあつて。おてまへの身緒までとふくあり。御國が

衰微して行立がさし。此故に終ふの押込隠居扱とありて。世ふまじくもあふ。あそれ至極とりふべし。世ふ人の物を生理を性ふむさびるほどの大悪ハありとあるべし。國主郡主人の頭とありてハ大事の者也。上一人の思召ふつて。下万民のなんぎとある。至つて大切の事あり。何卒身をよく慎む足事を去り無欲清浄ふして。万民の安心ふくもやうふまじし。我身一人の榮耀をせんとして。万民を苦しむるハ大悪無道ふして。此上の罪ハあるべうら。是ふよつてたとひ飢寒えて死するとも。人の物の決してやうあつてうらむと。意地を急度定めあふべし。又君子のむさびらうらむを以て宝とむとりふ事を深くあるべし。是が即ち福德安心の來る大道也智者是をあるべし

○又主君なる者ハ学文をして。智慧をみぎき一家一門朋友臣下等の智者と相談して。國をも家をも大丈夫り治めあふべし。是ハ國天下の事とむらう思ふべうら。百姓町人といへども。相應ふくも者ハ。主人ハ仁義礼智信かあつてハ家の治まりがさし。兎角我身を正しくあて。其後人を治むべし。又政事の政ハ正の字也。身を正しく道を正しくして。無理セハ無理いむむ。真直ハ正直ある事也。又政事ハ法度也。國天下の事とむらう思ふべうら。人々家々

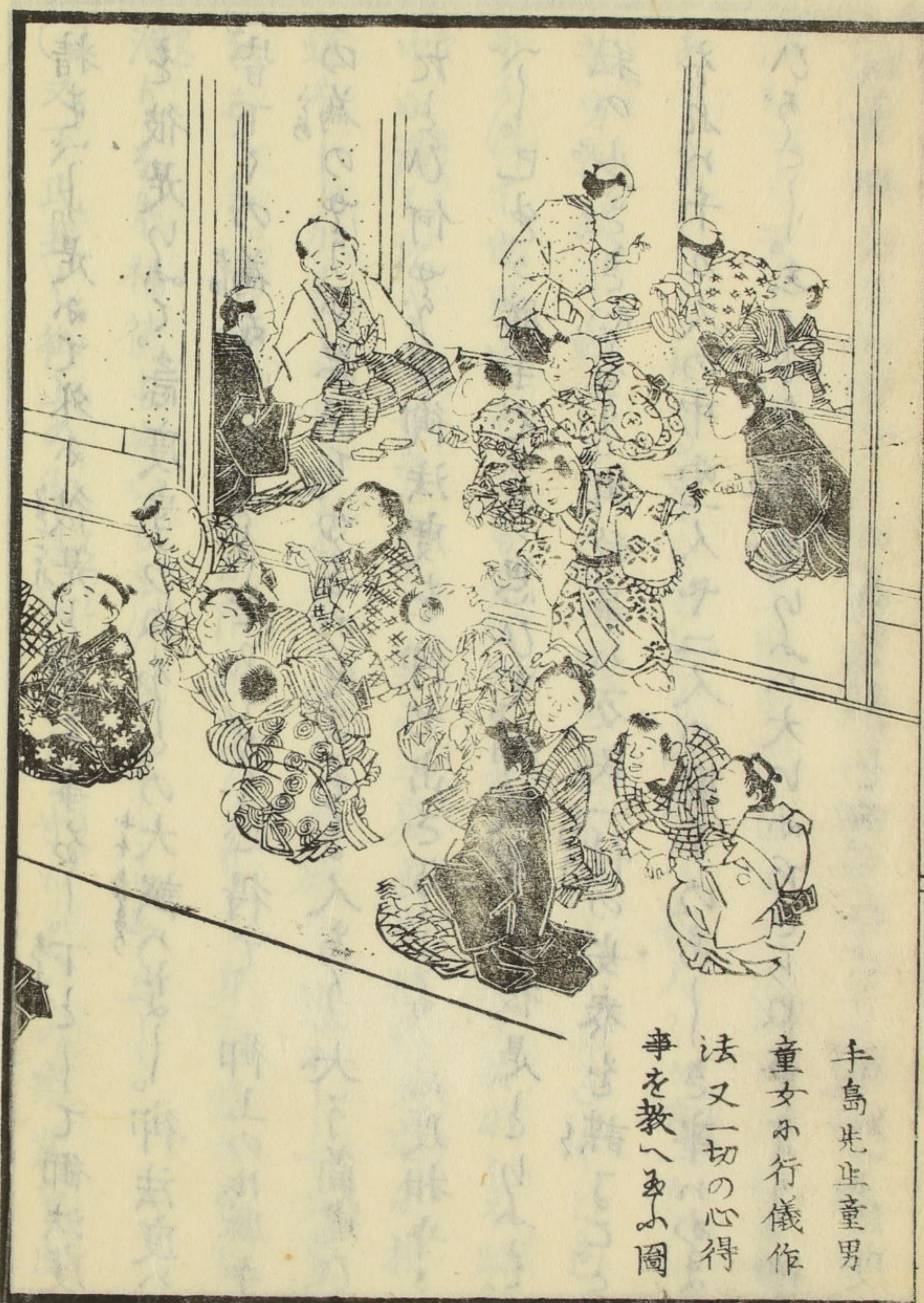
の政事あり。百姓町人といへ共。家内の政事をよくして家を
治むべし。天下を治むるも一國を治むるも一家を治むるも
あまり。多かりたる事、あきりのあり。皆人々ガカ一とい
苦勞を致し難儀をせしむ。國も家も治まりがごとし。こと
みよめて世界中一人も安心ある者あり。上下共おこる胸
中み満たる大苦勞あり。実み三界無安猶如火宅。み相
違あり。亦もごとく身をよく脩め無欲清淨にして且更
をまらむ。福德安心ハ夫み附物なり。りし身を脩めむ。心
濁りあむ福德も安心もふれふありとあるべし
○又下民共を御上の御法度をよく守り。人々の家業を出

精をばし。是めて外み彼是と思ふ事あり。下として御法度
を彼是りふて。急度守らぬやどの大誤ハなす。御法度ハ
皆下々の為あり。あつるをまらむ心得て 御上のハ勝手
の為のやうみ思ひて。ゆるがせよまらむ人あり。大り簡違ひ。
たとひ何やりの御法度を仰せ出さるるとも。急度相守る
べし。己色ガ勝手むらり思ひて。御政事を彼是とりふて。
私の少なき心あり。御政事ハ万民一体の安泰を謀ること
あれば。千万人の中み一人や二人の勝手のありき事ハあま
ひがごとし。あつるを彼是りふハ大いみ何とらぬ事なり。御
政事御法度ハ皆下々の為なるをゆるがせく存知て急度



三徳心行三編

三二



三徳心行三編

三二

丰島先生童男
童女小行儀作
法又一切の心得
争を教へる小圖

相守るべし。御政事御法度があくてハ世界ハ立がじ。是をよく守るハ身を治むるの根本あり。福德安心の来る道也。悦びて相守るべし。若善悪是非をりよて。ゆるめせよ思ひ急度守らぬ人ハ異儀及た大罪く

○兎角上ハ立所の主君ガ無欲清浄にして。仁義を好む人でなくしてハ國家ハよく治まりがごとく。あり上ハ立所ハ主人ハおごりを好み無性ハ民百姓の物をろくろりゆるみ時ハ。臣下ハ強欲無道の者何れも君の御氣ハ入て。出世せんと思ひ下民の物をひどく取立て。國中の大あんぎとある。其志やうこの大学ハいもく。一人貪戾をも一國乱を作るとあり。註

ハ貪とハむきやるとよみて。強欲邪欲の事也。戾ハもとくとよみて。祿おけまぐる事あり。上一人ガ欲おふけり理おそむき。祿おけまぐる時ハ一國の人ガ皆らをもお留ひて。たがひハ邪欲をして乱逆をあらも思ふべきの甚敷なりと

又大學ハいもく。堯舜天下を帥由るハ仁を以てまをも民是ハ従ふ。桀紂天下を帥由るハ暴を以てまをも民是ハ従ふ。此故ハ君子ハ己をもあつて而して后ハ人ハ求むといえり。註ハいもく。暴とハむけもまよくゆるき事あり。夫故ハそとハひやぶるの義とまも也。古ハの堯帝舜帝ハ身ハ仁善を行ふひて。其後民ハ善を行ふと教へぬ。此故ハ天下の民皆是ハ

從ひて善を好む悪をまざる者あり。又夏の桀王殷の紂王ハ私欲を恣あままりくして暴虐を好まざるまよりて。天下の民皆みなこもこもを習ひて暴虐をあらひ世の中ハ大乱あり。桀紂の二王も終つひに亡びて四千余年の今いま至いたるまで。大悪名をのこし。いつでも悪事の手本よ引出ひきだする後のち悔い千萬也。此故ゆゑ君子ハ先我身を又善を行ひて。其後人は善をせよと教へし。此故ゆゑ万民よく治まりて。天下泰平あり。若上はたる人は私欲をともあまりある時ハ。下民のあらふ言葉ハいひつつては。此天罰をあらはしめて終つひにハ國家を亡しむるべし。よく考へて見るべし。善をまとむる一生悪をまとむるも一生。然らば善をまとむるハ何れほどの利徳がある

かあるがごとし。若悪をまとむる時ハ。何となく心は苦しくし何れりて安心あり。心は悪し何れりて其行を正しては。時ハ心がうまりて。何となく恐ろろろ何れりて。心氣を養ふふとあらむるがたし。是大いなる苦勞難波をまとむる其上は福德あり。是程の損は何れるべし。孟子ハいはなしる浩然の氣を養ふふ事は何れの道理あり。行をひ直すらる所ある時ハ。心を安んどむる體は。一切のあらむる事皆心勞あり。心ハ身の神明なりて。諸の理をそとへて。万のづの事ハ應ずむ心ハ靈妙不測の神也。此故ゆゑ無理ハ心は受めぬ也。心はうけぬ事ハ。天地の神明が受めぬ也。天地の神明が受めぬ時ハ。災難不仕合をかり來つて。福德安心あり。是はあらはしめて

孟子の書 三編上 三三

無理非道ハ決して致まをうらむ。無理非道をまをれを神
 明お捨らもて浮む瀬更おあ。夫故り手罵先生の前訓
 小いもく。何おあきらむを啜りふらり為たりハあさきぬりの
 まして。是人間第一のたしあきあり。人の本心の正直あるが生
 ま付ぬてはもき故お人少くも偽つてくもいを
 為かいあや。忽ち我腹の中お急度氣味がもく覺えがあお
 あり。耻ううくおそろき事也。盜賊或ハ人殺しも幼少此
 時を同ト人おて外お種のおをりたるおてハあくは皆此ら
 そをつき習ひ。段く上手おあり偽のあがりたる者ハ一切
 の悪性事をしたる。何るひと盜賊を殺し人を殺すも殺すや

うおあり申候。もるき事をめくして人ハまらぬと思へども我
 腹の中お我がよくあるあり。此ある心ガ直り神様や仏様と
 一体あり。まうもをいそぬをゆせぬをらの事をいふたり為た
 りもるハ。神佛のしきうひ故お心うけぬあり。さきも
 此本心の氣味もるく思ひて。うけぬ事ハあまてありおもしふ
 たりあうらハせぬりのあり。御心得可被成候古哥小○の川
 もりも人ぬいひてやまあま。心う問をいふらへんと。何お
 わぎうも是ハあきと思ふ氣のつきたる事ハ。さきあさ
 きぬ者おてハ。是らあき事にあらば御幼稚の時あり。御成人
 の後まで大入用の事おして急度は心得可被成候學問の至

極と申は別の事ふてふ事。唯此悪きと思ふ事をいせぬと
 せぬとの外はあくいとあり。是めてよくあるへ。身は悪心
 悪行私欲をたうまりて。所詮安心も福德もあつとあるへ
 心は人の神明衆理を具へて万事に應むる奇妙不思
 議の者あり。心の神明々徳は少の悪も受ぬあり。其神明
 至公至誠にして。少も私もあき故に吉凶禍福を人の
 命もつ所の事もあきも何れも其正しきより出る事
 あり。賞罰も少も依怙ひききの私にあつ。此故に君子
 一向に身をあきめて善を為し其福德をいせよあり。其
 求むる事を。皆天命に任せて。此方ハ唯人事を尽し善

をあきめて。示る小人ハ無理非道をして幸ひをいせぬ
 んとき。是大いあるあやまり也。無理に福德を得んと志
 したとして中々得らる者も何れも。天道のゆるしに受事
 を成就する事あり。是を無理に求めんと志せむと
 て。いせぬをま福き滅亡に及ぶとあるべし。冥加訓いし
 く。天の何れもあつ人の文覽めて求め得たる分ハ疾に遷
 りて天より取らるる事也。其取らるる時が大事あり。
 何れもま福を。一命共取らるる事あり。我は実あ
 らる名も得べし。我は仁徳あつるを福も得べし。天のあ
 ざる事あつるを。此方めてきりつりハ出来がこし。

万事此道理あり此方ふてきりつゆり又きハ唯善をありて諸事の
天小任せしむるがよし。そき小善ありて天より賞をあたへ
へふべし。これ小悪あらば天より罰をあたへふべし。天
ハ此賞罰の役あるを。少しも依怙是負の私ありて感
らむ。兎角天ふあつて居るを樂くともべし。善悪共
み天の帳ふつくと存して憤り恐るべし。當分の由る
置ふふとも。一度ハ勘定あつて差引かあふべし。無理非道
小利を求めて元追失ふべし。書經の心是なりとあり
。此通心得たるを明闇陰陽あり。善事をせればか
らぬ道理也。よき教へあり。此道理をよく心得て昼夜善

事をかりを致さべし。若無理非道の悪事をせむ。天の帳ふ
つて否應あり。小貪乏難儀のせめをうくべし。こそ小よ
めて人事を盡して天より福德を授けぬを待べし
天小随かひ善をせむ。安心ふして福德あり。天小逆ひて
私心邪欲をせむ。貧乏あんどある。是大損大耻
道あり。何卒少欲知足仁義正直の善道を以て心を養ひ
安宅小住居をべし。此上の福德安心をあるべし。○大學
小いそ。百衆の家小ハ聚歛の臣を畜あるを聚
歛の臣あらんよりハ寧ろ盗臣あるを。國家小長とし
て。賊用を務むるハ必も小人小あり。彼為善乏小人を

定從心得三篇上 三十一

國家を為めむむるハ蓄害並ひ至る善者何れといへども是
をいふんともむる事なり是を國ハ利を以て利とせず
義を以て利と為といふとあり

彼為善之の四字諸説多けきども通せ此方の上
下文うけ字の何やまりあつんと註してありあつ

を此四字ハ昔より知色と見えたり近頃学庸
精義を見るより彼ハ君を指以之ハ取用をつとむる者を

さしとあり是ふて前後の義理もよく通むるかと思
ふ諸君子の評をまじ

註り百衆の家とを軍役ハ兵車を百輛出せ家の事

あり我朝の御大名方の家老衆ハ何れとあり亦もど

も上の文よりの心ハ御大名方並ハ御旗元衆家老衆す
べて知行取の事也聚斂といふを定りたる年貢の外ハ色

くか手立をして下民をくるりめ財宝を取あけて君の御
藏へをさむるを聚斂の臣といふ御益くと名を付けて

御上の為をさむるやうあるども実ハ御上の御氣ハ入て我
身の出世をせんさめ也私欲邪心を以て下民を志へたけ

取あけめたる所の財宝あるを之以て君の不益とあり
後ハ大災ハとあるなり此故ハあつしんの臣あつしんよ
りの盗とむる臣下がまゝあつしんとしハ事也何故あるは



武田信玄四十一女上杉謙信ハ
 三十一女永祿四年酉九月四日
 信州川中嶋の合戦



君の物をぬきまされぬふ。君御一人の御損ふて。御家御身の
 大きかりあり。然るふあうまんの臣を養ひおけた。萬民を
 くるしめ。國を亡ぼし身を失ふいふ。此上の大なる
 もひあり。此故ふあうまんの臣あらんよりぬ盗^{ぬそ}する
 臣下の方^{ほう}がま^ましぢやといふ事あり。是ハ盗臣のあ^あるをよ
 といふあうま。あうまんの臣ハ盗人のうをまひ取あま^ま。
 此上もない大悪人ぢやと。いやしめたることを也。又國家
 ふ長として財用をつとむるハ必も小人ふあるといふことハ
 長とい頭役の事あり。頭役の小人が君の御棧^きふいらんとて
 聚^{あひ}歛^{せん}の事むり申し上^{あひ}て。財用をあつむる事むりをい

たり君を私欲非理の方へ導^まきて。大害を引出^いす大悪人
 あり。尔^しふ君もま^まと是をま^ましとま^まて此小人を用ひて
 國家の政事^{せいじ}をつとむ^む。此故ふ天^{てん}蓄^{じく}地^ち效^ち来^き川^がみ
 上下万民の大あんぎ也。此時ふ至^{いた}りて智者善者ありとい
 へども。是をい^いんともま^まる^ることをし。是非^{せいひ}共^{とも}ふ國家を滅^め
 亡^なす。是を利を以て利とま^まる^るハ國家の大害^{だいがい}。義を以
 て民を治むるも。國家の大幸^{たいしあう}ありといふ。此事をよりくま^ま
 て。何でも世の中ハ仁義禮智信の五常を以て民を治むべ
 し。左様あ^あく^くてハ。國家ハ治まり^ちが^がし。當^{たう}分の利を見て
 民の物を取集むるハ無智愚鈍^{むちうどん}の此上ありとま^まる^るべし

○學庸精義いそく。仁義をつとめば。聚歛を以て倉廩くらんを實とまも者ハ則ち小人の所為也。人主此人を喜んで。是ハ大政たいせいを授く則ち民散さんして四方しやうほうへ行ゆく蓄害禍ちやくがい乱らん亦並び至る。此時ハ當つて堯を以て君と為し舜を以て相とあり。禹稷皋陶伯益之徒。是を謀るといへども。夫餘殃あまのわざの如きハ。何如せん故ハ明主めいしゆの國を治むる。衆小擇しゆせきんで其賢けんを奉たてまつりて。國政ハ臨のぞむ。夫の小人を以て。其政せいより間まへへ易やすふいとく大君命たいくんめいあり國を閑ひらき家を承うける小人を用ゆる事ありとん。此の謂也とあり。是ハて民をむさぼる主君。あつて小人をあもる臣下ハ。大惡無道の人と定さだめおくべし。あつて小人等の事ハ。明君忠臣ハ決してせざる所あり。唯無智の主君。不忠の佞人ねいじんども力をもること也。世の中をむさぼるむさぼる罪人也。

○是ハ民をむさぼる主君。其手傳てんづひをもるあつて是の臣の事とむさぼる思ふべからば。一切万民の身の上ハある事あり。何でも人の物を無理無性ハ不しらざる者ハ大いハ人ハ憎にくむとさきうとをて。大損おほいそんをもる人也。強欲きやうよく者しやハ。いよいよ事ハきつせぬ者也。邪欲強欲の人ハ。人よりいよくまきて人の用もちひもあくやのりて。出世も出来ぬ。あつて貪ひん乏ひんする者也。出る息引息ハ人の物をややらざる

者ハ近付ちかづきふもありぐさ。近付ちかづきふあると直ちかハ無理を
 して損そんをかける。人の物を無性むじやうふりある者ハ。大悪
 人おんじんとして。慈悲じひもあさけもあひ者也。事ことふよまば主しゅを
 親おやをも殺ころす者あり。大いふ恐るべし。私欲しやく邪欲じやくを我
 身み勝手かたよりおこる。我身わがみ勝手かたをくりをさる。人ひとハ無慈むじ悲ひ
 の悪人あくじんあり。まをふよ例れいて主しゅをも親おやをもころをも事ことあ
 り。哥あはふの身みを思おもふ人をあころふよせつけぬ。主しゅをも
 親おやをもころはりのあまし。是こゝふてあくあるべし。身を
 思おもふとハ我身わがみ勝手かたをさる。人の事ことあり。世よふ人の物を
 無理むりふりあるほどの。大悪あく事ことハあるべし。む。無理むり非ひ

道みち我身わがみ勝手かたの私しより大災だいさいひを引出ひきだし。家いへをも身みを
 も失うしはひて大苦おほく惱なうの受うる事こと也。夫おの故ゆゑふ法ほふ花け経けいふを諸しよ苦く
 所しよ因いん貪こん欲よく為い本ほんとありて。一切いっけつの災さいひ苦くしこの因いんハ貪こん欲よく私
 欲よくを以もつて木きとまるとりし事こと也。己おのまが得手とく手て勝手かたをくり
 を思おもふ故ゆゑり。主人しゅじんをもたふらうし。人ひとをもころをも中ちゆうりふ
 ある事ことあり。一切いっけつの悪あく事ことハ。欲よくの一いつよりおこる。一切いっけつの悪あく事ことを
 欲よくの一いつの變化へんげ也。欲よくの一いつさへ取とつてのけを。身みハ安心あんしん安樂あんらく
 あり。私欲しやくの一いつより大苦おほく勞らうを求もとめて。遠とほ島しま死し罪ざいともある
 也。是こゝふ付つて私欲しやく邪欲じやくハ諸しよくくの苦くの種しゆ國家こくがを失うしふふ本ほん
 源げんとある。狂けう哥あはふ

○人ふあつ、カハあも、とふうそに。我身勝手ぬ。ろつ智恵ハかん
 ○人心いやしくあるハ金小目グ。ついで終りハ大びやうとある
 ○大こともや、不ひのものハ無理非道。命失ふことありりや
 ○兄弟由人交りも何もあも。よくのつるぎで中をとりあり
 ○欲のつるぎ恐るるあらば仁義礼。無欲清淨もやう学をよ
 ○天地の四方小敵ハをいものぞ。無慈悲貪欲あらばど大敵
 ○日々ふあつたふもむけりも心。私心邪欲の垢をおとせよ
 ○みぐいれうみぐいことば々よ光る也。心もれば身ハあんぎなり
 ○神仏儒三つの道をいよく修せよ。現世安穩後生極楽
 ○儒仏神よき教をばあうべりて。そまうあつそふ人ぞうあしき

○神儒仏ふりこの道ハうれた。のりまばああト月を見るあは
 ○仁義礼。人の心の徳ぞう。ひろく学びてとれをおとれ
 ○何事も五倫五常によらざれば。異端俗儒の邪けんものなり
 ○身を脩め家を齊ふ外ハなし。それふとある徳をみあげよ
 ○善をあら悪をせざまばおのづから。家ハさうして身ハ樂あもの
 ○つとむべー家業ハ天のやくめあり。天ふをむけば身ハあつふべー
 ○誰くもらぬがれりて利口顔。まはるく世をくもあ
 ○まづーくまづーきまふ樂あめよ。富さうえあを。礼義あまじ
 ○是等の狂哥をよくかんがへて。あどよき所を通りあふべー
 ○何とぞ人欲の私小勝て本然の善を全うまべー。是ぞ人間

の本心を養ふとりよ者ふして。福德安心の来る大道あり。か
やりの道理あれむ。たとひ何やうの事ありとも。人様の物
を決して無理ありがらざるべし。若無理ふ人の物をありが
らば。家を失ひ身をころむとあるべし。此事を深くあつて
無欲清淨の心を持べし。無欲清淨ある人の。人も愛して世
間もひろく身も心も安樂也。又天より福德をよ下さるべし。
夫故に佛神聖人の無欲清淨あると教へ申す。又君子の
むさぼらざるを以て宝とせしむるも教へ申す。孟子も心を
養ふに寡欲ありよきありとあり。是等の教へをよ
く用ゆべし。又北條九代記に泰時のいをもく。少欲りて

足事をある時。心底ふよこしはあり。心底ふ邪しよある時
一切の為よと皆善あり。心底ふ邪しよある時。一切の
事皆悪あり。人倫の耻を人の物をむさぼるより大いなる
るをありと仰せらるなり。是は間違あり。一切の災ひは
私欲身勝手より大いあるをあり。士農工商とりふ私欲
深くして人の用ひもあくありて。貪乏ふんがよある也。
世ふ人の物を無性ありがら私欲邪欲などの大敵を
あり。一切の悪事ともありおこる。此事を深くあつては
とへりて死するとも。人様の物を無理を決してやると
るべからず。急度心得あり。又士農工商共り人の物を

無理ありかたて。ことをたたくふ心根を智者より見たる時。至例て見ざるべき者也。又こびへりらひも智者にせざる所也。哥の〇をりらひの欲心ありや耻もあき。ふりあき人のきげんも取と。あるるどふりあき人のきざんをどうも間違あり。何でも人の物を無理り不しがるほどの大損大耻ありとあるべし。

○何でも仁義礼智信の五常を行ひ少欲知足ありて。世の中をくらまべし。左様あくてハ誠のよい人といひひがたし。又福德も安心もあしとあるべし。孟子のいそぐ堯舜の道も仁政を以てせざるべし天下を平治する事あることを

と。又いとく。仁ハ人の安宅也。義ハ人の正路也。安宅を曠き居らむ。正路を舍て由らむ。衰哉とあり。註ハ安宅とハ安穩ある居り所とあり。事也。是ハ居る時ハ自づから安くしてあるあり。志あるハ安宅ハ居らむして危ふきあんなぎの家ハ居り。又正路とハ正しき道筋あり。義とハ天理當然のありき道也。是をゆく時ハひろくして安らかり。然るハ此道をゆく人あり。皆あやうき道なかり。無智不明とりよべし。上下共ハ仁の安宅ハ居り。義はたふしき路を通りよべし。是を誠ハ福德の来る道とあるべし。又孟子のいそぐ。不仁者ハ典ハ言べし。其危きハ安

んとして其蓄たくわひを利とせ其亡やぶぶる所以ゆゑを樂しむとあり
 此心こころの不仁無智の人との與ともみ咄はなしを出来がごとし其危あや
 ふきあんぎの所をあらわしてかへつて安心あるよの所
 と思ひ又大蓄おほたくわのある損そんある所をあらわして久つて
 利徳あるよの所と思ひ又あがり遊山ゆうざん名聞なもんの皆國家を
 かぶるの道あるかへつて是を樂とと思ふ又不仁者にじんしやの私欲しやく
 邪欲じやくを走りて本心の徳を失ひ不仁不義をして終ふ滅めつ
 亡たうふ及およぶとあり昔人むかしひと共ともに無智邪見むちじやくけんふはよまるその危あやき
 小安せうあんんとして其災さいひを利と為なす其亡やぶぶる所以ゆゑを
 いとせて一言いちごんもあらず大開口おほいこう

三篇上



